

研究課題名：

くも膜下出血に対するクラゾセタン投与群と非投与群の臨床成績の比較検討

研究の目的と方法：

脳動脈瘤によるくも膜下出血は、発症4-14日後に40-70%の頻度で脳血管攣縮が発現し、脳血管攣縮発現患者の17-40%で遅発性虚血性神経脱落症状を呈し、その約半数が脳梗塞に至ると言われています。2022年1月に本邦で承認を受けたクラゾセタンは血管収縮を抑制することで脳血管攣縮発現リスクを低下させるとされますが、一方で合併症として胸水貯留や肺水腫を呈することも知られています。

本研究は、当院におけるクラゾセタン使用の臨床成績を検討することで、同病態に対する診療の質の向上を目的とします。

方法は、当院ICUで治療を受けたくも膜下出血患者の基本情報や診療経過等について電子カルテで後方視的に情報を抽出し、脳血管攣縮や脳梗塞の頻度や、胸水貯留、肺水腫などの有害事象の頻度などとともにそれらの要因について検討します。

本研究の結果はクラゾセタンの臨床使用に有用な知見をもたらすと考えられ、診療の質向上の意義は大きいと考えます。研究成果は学会や学術専門誌などに発表に使用される場合は、個人情報や特定される情報が公表されることは一切ありません。本研究への情報提供を拒否されるかは患者の自由意志です。提供しないことにより不利益を被ることは一切ありません。提供をご希望されない場合には、患者本人もしくは代理人の方から当院へお申し出ください。

研究対象者：

2022年4月以降にくも膜下出血で当院集中治療室に入室された患者。

対象期間：

2022年4月1日～2025年3月31日

研究期間：

2022年4月1日～2026年3月31日

研究に利用する情報：

カルテ等に記載のある患者情報（年齢、性別など）や臨床経過情報、血液検査所見、画像所見などを収集します。

お問い合わせ先：

研究責任者

奈良県総合医療センター 救急・集中治療センター 集中治療科 茂見 瞭